

みすづさんの
ふるさとを
たずねて

豊島区立

豊成小学校

3年 石山瑠月

目次

1. 調べようと思った理由
2. 地図、山口県仙崎
3. 金子みずぶさんという人
4. 本名
5. 金子文英堂
6. 小学校時代のみずぶさん
7. 女学生時代のみずぶさん
8. 童謡、詩人金子みずぶさん
9. なせみずぶさん
10. 金子家
11. 仙崎とくじら
12. 大切なものを見つけたよ
13. 写真で見る仙崎
14. お世話になった人

参考資料

積つもた雪ゆき

上の雪

さみしからな。

つめたい月がさししてて。

下の雪

重からな。

何百人ものせていて。

中の雪

さみしからな

空も地面も見えないで

1. 調べようと思った理由

詩人、金子みすゞさんに出会ったのは一年生の時でした。

「豊成の音読百ぺん」にのっていた「私と小鳥と鈴と」をきっかけに詩を読むようになりました。

みすゞさんの詩はすべてのものに「ありがとう」の気持ちをもっていて、「ごめんね」や「あたにかいやささ」が伝わってきます。

3月11日におきた東日本大震災後のテレビCMで「こたまでしょうか」がなかれ、みすゞさんが注目をあびました。

そんなみんなの心を動かす詩をかいたみすゞさん。どんなところで生まれてどんなふうに

育ったの？ よりふかく知りたくてふるさとの山口県長門市仙崎へ足を運びました。



2. 地図、山口県 仙崎



3. 金子みずぶさんという人

みずぶさんが生まれて100年後に……

1903年4月11日山口県大津郡仙崎、今の長門市仙崎に父、金子庄文助さん、母、ミチさんの長女として生まれました。

この年は、ライト兄弟が世界ではじめて空をとんだ年です。

ちょうど100年後に私が生まれました。

ちなみに2003年はアメリカのスペースシャトルコロンビアが地球に帰る時空中分解し、つらくして乗組員7人が全員死亡という悲しい出来事がありました。

うれしいニュースには「千と千尋の神隠し」が、アカデミー賞を受賞しました。

私が生まれた時は宇宙へ向かうロケットが開発されていました。100年という年月は本当に長いと感じます。人間は100年たつともものすごくいいきおいて時代をかえていく力があるんだなと思いました。人間はすごい！



これが王子山から見た仙崎の町です。

みすゞさんは青海島(地図①)にある小高い王子山から見た
仙崎の町が好きでした。

せみが「シャーシャー」と大きな声で鳴く、とてもあつい日。
私も王子山に登り、仙崎の町をながめたら、いっしょにみすゞさんを
わすれるほど今まで見たことのない景色でした。

みすゞさんは王子山という詩の中で仙崎の町を「リュウグウみた
い」と言っていたけど、東京で育った私はふだん海も山もみない
ので、この中にしまっておきたい大切な風景です。

4. 本名

本名はテルといいます。

お日さまが照るのテル。お月さまが照るのテル。
明るい時はもちろん暗い時もまわりの人を、
やさしく照らしてくれる。そんな人になってほしいと、
考えてつけたつけた名前だそうです。

私の名前、^る瑠^る月も暗い夜そとみんなを、
明るく照らすやさしいお月さまのような人に育て
ほしいと両親がつけてくれました。

みずぶさんと私の名前の意味が同じで
とてもうれしく思いました。

5. 金子文英堂

父、庄え助が亡くなったことで、母の三矢さんの妹夫婦が、
いとなむ下関、^{佐々木}上山文英堂のあとおして金子文英堂
書店を始めました。

仙崎ではただ一軒の本屋です。

本と文ぼう具をおいた店で二階の四じょう半の部屋が
みずびさんの部屋でした。

土地②

これが金子みずび記念館
です。みずびさんの実家あと
地に再現したものです。
昔は字を右から書いて
いました。



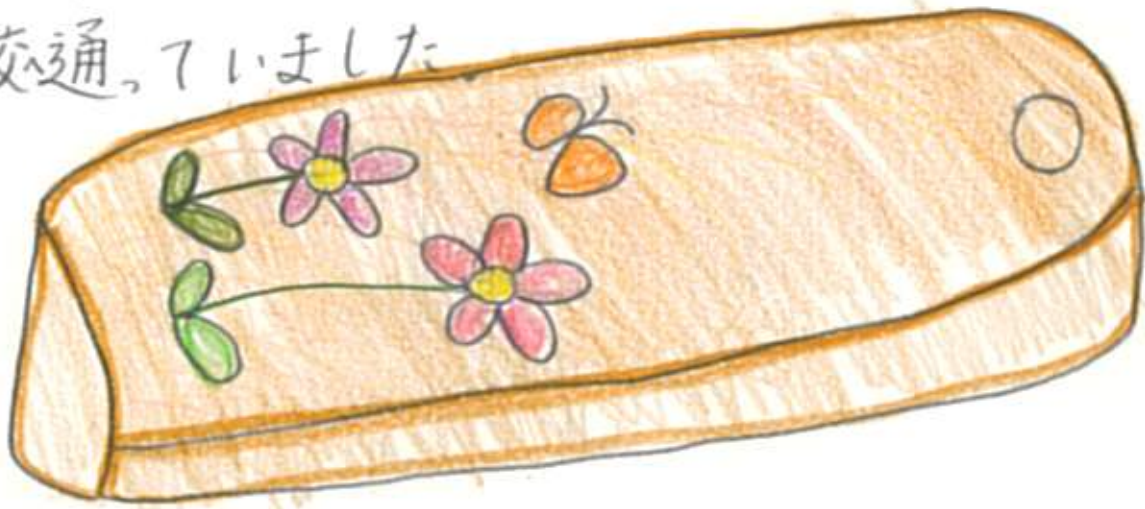
これは、みずびさんの部屋です。
みずびさんはこの部屋の、
窓から何を見ていたの
でしょう。

ここから見た風景の詩も
いくつかあります

6. 小学校時代のみずびさん

1910年4月瀬戸崎尋常小学校、今の仙崎小学校に入
学しました。

みずびさんは久留米がすりの着物におはあちやんか
ぬ、てくれた友せんもよりの前かひけをつけ、けたをはき
教科書とノートと木の筆箱をつんだ、ふろしきで
学校通っていました。



木の筆箱

おさげで色白で丸顔のやさしいまなざしのみずびさん
成績は6年間クラス一番。勉強ができて面白いばかり
しない、たれからも好かれていたそうです。
家が本屋だったからでしょう。

久女学生時代のみすゞさん

1916年4月大津高等女学校に入学。

女学校では、学校の発行する会誌「みさを」にたくさんの文章をのせていました。

みすゞさんは家から女学校までの約3キロの道を40分かかっていろいろなお話しを考えながら歩いて通っていました。

15才の時、日本で最初の童話、童謡 ざっし「赤い鳥」が発売され、みすゞさんはこの本が好きで毎月心まちにしていたそうです。

この時1918年から8年間日本の代表的な

童謡がたく作られました。

北原白秋 きたはらはくしゅう 「ゆりかこのうた」

西條八木 さいじょうやま 「かなりや」

野口雨情 のくちあめじょう 「七つの子」「赤いくつ」

青木存義 あおきぞんぎ 「どんぐりころころ」

中村雨紅 なかむらあまこう 「ゆうやけこゆけ
夕火売小火売」

8. 童謡詩人金子みすゞさん

兄、堅助さんの結婚をきっかけに20才になった

みすゞさんは、仙崎から下関の上山文英堂支店で一人で店番として働くことになりました。好きな本を好きなだけ読めるうれしい時間でした。みすゞさんは大きな木箱で送られた本の景品の小さな手ちょうに童謡を書きはじめました。そして雑誌にとうこうしました。

そのペンネームが「みすゞ」だったのです。

「みすゞ」は万葉集(日本で一番古い歌集)の中で「^し言濃の^{くに}國」にかかるまくらことは「みすゞ刈る」が好きでそのみすゞとは「^ひの竹」としてせのひくい細い竹のことです。

小さくて細い竹が大きくて太い竹に負けずに生きているすかたのように、小さかったみすゞさんは、かんはって私も生きているとはなれてくらす家族に伝えたかったのかもと私は思いました。

こうした作品がすべてえらばれ、その後もつぎつぎとさっしにのり、20才から約1年半が金子みすゞにとってもっともかひがやいた日々でした。

若き童謡詩人金子みすゞの誕生です!



注文した雑誌が木箱で送られてきます。
その木箱の中に手帳が入っていました。
本のおまけについてきた手帳3さつに
みすづさんがのこした512への詩が、
書かれていました。

おまけは、だれにとってもうれしいものです。
みすづさんもきくと気に入って楽しい気もちだったから
たくさんのおすてきな詩がかけたのでしょうか。

9. なせ、みすゞさん

みすゞさんがはじめてとうこうした童謡を有名な西條八十先生がほめ、はげましてくれたことを

とても幸せに感じていました。けれど西條八十先生がフランスへ^{リョウガク}留学することになりみすゞさんの作品がえらばれなくなります。

1926年、23才で結婚。その年、娘、ふさえさんが生まれました。みすゞさんはお母さんになったことで

童謡を書いたり、とうこうすることをひかえました。全国のたくさんの方童謡詩人から手紙が届きました。

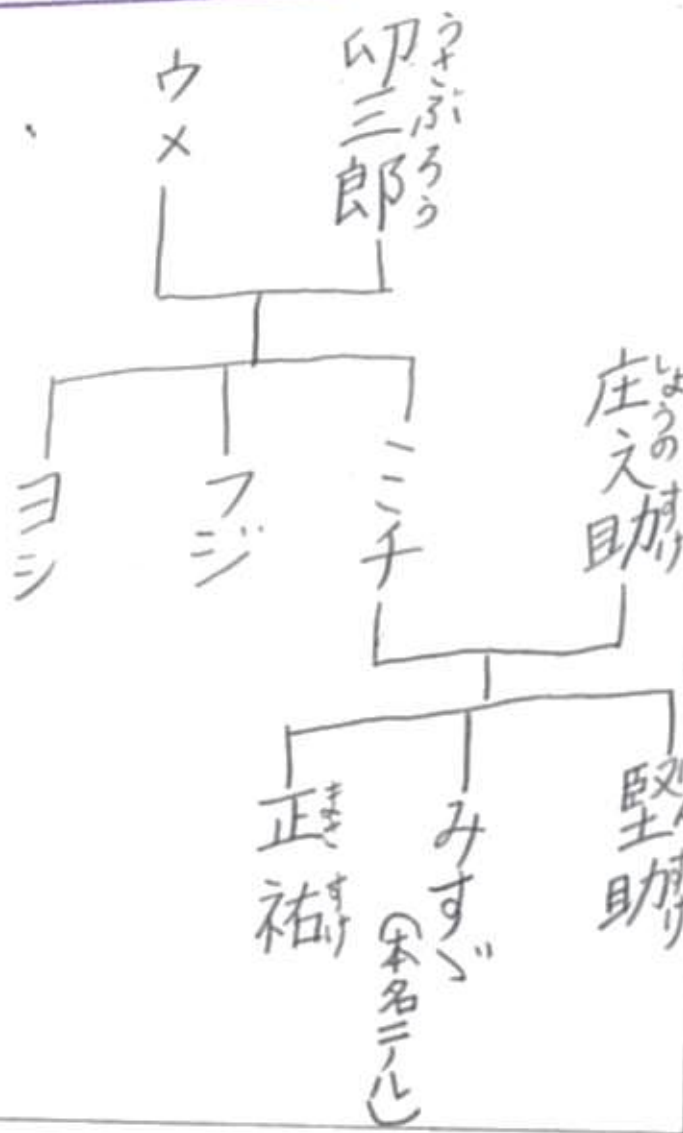
みすゞさんはみんなのあこがれの人だったからです。たんなさんはそれがおもしろくなかったようです。

みすゞさんは童謡を書くことを禁じられました。

その後、みすゞさんは具合が悪くなり、たんなさんとわかれてしまいました。自分で娘、ふさえさんを育てたかったけど、昔の^{ほうりつ}法律では、父親が育てることになっていました。

みすゞさんは、どうしてもふさえさんをわだしたくありませんでした。みすゞさんは、死をえらんでしまいました。やさしすぎる人だから言うことができなかったのかなあと思います。

10、金子家



みすづさんのお父さん

父、庄え助さんは書店
 上山文英堂の満州(中国)の
 お店で支店長さんをしていました
 がとうやくにおそわれてみすづさん
 が3才のころに亡くなりました。
 まだ3才でした。庄え助さんの
 お父さんの家の前の海では
 よくくじらをとらえていたそ
 うです。

みすづさんのお母さん

ミチさん比でももの静かいて優
 しい声の心の美しくかほにい
 んでした。
 後に妹のフジさんのたんな
 さんと再婚します。

みすづさんのおばあさん

祖母のウメさんは巴白でやさしい人だったそうです。

神様や仏様をそんけいする方で月に2度程近所の
 子供たちや大人をよんでおきょうを読んだつり勉強会を
 開いていたそうです。

みすづさんのお兄さん

兄の堅助さんはみすづさんと仲が良く二人とも
 言葉づかいていねいで近所の子供たちの手本にされる
 ほどだったそうです

みすゞさんの弟

弟、正祐さんは2才の時、下関で上山文英堂書店をいとなんでいた
母の妹フジさん夫婦のあとつきとしてもらわれていました。
下関商業学校の学生になってから春、夏、冬の休みに
みすゞさんのいる仙崎にたすねてくるようになりました。
それは、フジさんが亡くなり、みすゞさんの母、ミチさんが
フジさん夫、上山松蔵と再婚しひとり、こととして育てられた
正祐にたとえ、兄弟と言えなくても兄とみすゞさんとの
時間を過ごしてやりたいと思う親心だ、というです。
けれど、みすゞさんを姉とは知らず好きになってしまうこともありました。
そしてみすゞさんの結婚話が持ち上がった時結婚反対の
手紙を送ったそうです。
その後、みすゞさんが実の姉だと知りそれから、
みすゞさんの気持を思いやる良き理解者となったことがみすゞさんの
手紙に書かれていたそうです。
正祐さんは脚本を書いたり、作詞したり、げきだんをつくり
活やくされました。

11. 仙山崎とくじら

仙山崎は、今から約400年前、高知の津呂、
和歌山の太地^{たいじ}とともに日本三大捕鯨^{くじら}地の一つでした。
仙山崎には仙山崎^{かき}通^{ちゆう}地区^{ちゆう}ふたつに鯨組^{くじらぐみ}というのがあり
きそく、礼^{れい}ぎを重^{じゆう}んじいさましく力^{ちから}強^{ちやう}さを大事にする。
反面、愛情^{あいじゆう}が深く、ほいゆう動物である鯨に対する
哀れみの心、感謝^{かんしゃ}の心を持っていました。
一豆^{まめ}頭^{あたま}が今のお金にかん算^{さん}すると30万位だそうで、
一年に平均して13豆頭とれたそうですから、大変^{たいへん}町はゆたかでした。
青海島^{あまがしりま}の通^{ちゆう}地区^{ちゆう}には世界にも類のない全国的に珍しい
鯨のお墓^{かみ}があります。
とった鯨の中には赤ちゃんが入っていた時、鯨組の人たちは、
命をとってしまった悲しみを深く心に留めるため、お墓
をつくらせてまいらうしたそうです。
鯨の赤ちゃんク8豆頭をまいらうしたのが鯨墓^{くじらかみ}です。
お墓は泳ぐことができなかった海がよく見えるように高台に
つくられています。
通^{ちゆう}の岸^{かみ}寺^{でら}では人と同じように戒名^{かいめい}をつけた過去帳^{かこちゆう}が
のこっていて300年間一度もたえることなく鯨のために、
お寺でおきょうをあげ法要^{ほうよう}をしています。

地図③

これがくいら鯨墓です。

くいらの親子の愛情は特別で、いつも親子で泳いでいるので、まず子供のくいら鯨をつかまえるそうです。すると親鯨は子供が忘れられず、何日もその場をはなれないので、かんとんにつかまっています。



くいらほうえん
鯨法会

鯨法会の春、くれ

海にとびうお採れるころ

浜のお寺で鳴る鐘が、

ゆれて水面をわたるとき、

村の漁夫が羽織はおり着て、

浜のお寺へいそぐとき、

沖で鯨の子が

その鳴る鐘をききながら、

死んだ父さま、母さまを、

こいし、こいしと泣いています。

海のおもてを、鐘の音は

海のとこまでひびくやら



長門市^{かほい}道にあるくじら資料館、

400年前のくじらをとる道具やくじらの骨やひげ、歴史的資料がてんじされて、館長の早川^{よしかづ}義勝さんが通に400年前から伝わる鯨唄を歌って下さいました。これは大漁の祝いの歌でもありほにゅう動物であるくじらに対する感謝の歌でもあります。

鯨組のなくなった今では鯨鯨唄保存会によって小学校あるいは、おまつりの席で歌い次の世代へ伝えていこうです。



12大切なものを見つけたよ

みずいさんのことをふかく知りたくて山口県長門市
仙崎へ行きました。

サンシャイン60やタワーマンションなどの高いたて
ものをみなれている私は、仙崎に来て木造の家がたち
ならび、時々しか人とすれちかわない通り、あまり
高くない山がずーとっつき、日本海は、ま、青で
とおくまでみわたせるけしきが

仙崎きょこうもあり、その昔くじらをとっていたこと
から魚やくじらの命をいただいて自分たち
は生かされていることを教えてくれる町でした。

仙崎に来て町をていねいにあんなしてくれた人たち
桃屋食堂でアイスクリームをサービスしてくれた店長さん
くじらのおり紙をたくさんくれたくじら資料館の
おねえさん。みんなやさしい人たでした。

美しいしせんと命の大切さ、やさしい心そして
みすいさんを大切に思ってくれた。だから金子みすい
さんの詩を読むと心かぐあたたくようになってくるのかな
と思います。

人だけじゃなく動物も虫も花も雪もどんな物にも
心があって大事なものなんだよって伝えてくれます。

大漁
朝焼け小焼けだ
大漁だ
大羽鰩の
大漁だ
浜はまつりの
ようただけど
海の中では
何万の
鰩の
するだらう

みすいさんは512編の詩を私たちにのこしてくれました。
私は仙崎に来て「大漁」という詩が好きになりました。

いわしは人間に食べられて命をとられてしまうのです。だから
食べる前の「いただきます」は『いのちをいただきます』という
意味なのです。

ときどき「いただきます」をわすれてたこともあたけともうわすれ
ません。みすいさん ありがとう。

13、
写真
直
六
で
み
る



かまぼこの板 2万枚でできた「大漁」の
風景をイメージしてつくったモザイク
ヘキかです。
一枚一枚メッセージが入っています

仙
山
崎



ライトをきりかえると朝焼けの海に
たくさんのいわしが泳いでいるようす
がうかんできれいでした



地回④

田んぼのあくにあるのが
青い海湖と松林になって
いるところが波の橋立
です。

さわやかな気持ちのいい
風がふいていました。



地回⑤

みずが通りにある全ての
家の玄関にみずがさんの
詩がべかべかかれて
いました。

仙崎の人たちみんな
みずがさんのことが
大好きな人だなあと
思いました。



14. お世話になった人



一日、仙崎の町をおんないしてくれた
「なか」とボランティアガイド会の上田^{うえだよしと}義人
さんです。仙崎生まれの80才。とても元氣
でものしりなやさしいおじいちゃまです。

仙崎小学校時代は、なんと、みすゞさん
の担任だった大島ヒデ先生におそわ
たそうでとてもこわい先生だったようです。

「おしまいの2、3行にみすゞさんの気持ち
が入っているんだよ」と教えてくれて！
私は気づきました。

おわりの3行は私たちをはげまして
くれるメッセージなんだって。



本当にありがとうございました。



くじら資料館
館長の早川義勝さんは
ご先祖様は網元
(漁師の中で一番上の人)
で重要文化財に指定
されたおうちに住んで
いらっしゃいます。

おうちの中まで
見せていただき
ありがとうございます。



かいだんが↑もの入れになっていて
かくしとひらをあげると屋根うら
部屋があります。



参考資料

「みんなを好きに、金子みすゞ物語」

矢崎節夫著 JULA出版局

「没後80年 金子みすゞ～みんなちがって、みんないい」

矢崎節夫監修 JULA出版局

「かよい鯨唄」

通鯨保存会

「朝日学習年鑑2004」

朝日新聞社



わたしと小鳥とすずと

わたしが両手をひらけても、
お空はちこととくはないが、
とる小鳥はわたしのよう
地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あや鳴るすずはわたしのよう
たたくならたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんながこころ、ふんないい

すずと